

令和7年度 小規模多機能型居宅介護 よりそいホーム 総括表

法人名	社会福祉法人 秋桜会	代表者	三島木 和香子	法人・ 事業所 の特徴	職員と利用者が「介護する側、される側」という関係ではなく、共に過ごす時間を大切に、今「何に困っているのか」に着目して支援している。小規模多機能型居宅介護のメリットが十分に活かすことができるよう一人ひとりの生活に合わせた柔軟なサービスを提供している。急な泊まりの追加などサービス変更にも対応している。訪問では安否確認、健康観察、内服確認、配食等、必要な支援を見極めて援助している。
事業所名	よりそいホーム	管理者	筒井 慈子		

書面開催	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	2人	0人	4人	0人	0人	2人	2人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> できている項目は引き続き継続し、改善計画を具体的に挙げ、達成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> できていると思っけていても、まだ各々の能力や解釈のちがいで評価の視点に差があり確立できていない点もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、評価していくことは大切である。職員が評価内容をどのように理解しているか、各々の解釈の把握と指導が必要と考える。 課題についてもより具体的な行動で誰もがわかるものに見直してみようか。 利用している家族の立場としては評価通りのサービスを提供して下さっていて信頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題が抽象的であると各々の解釈で細部が共有しにくいため、誰もが実際の行動として実行できるようにより明確な計画を考える。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 四季を感じられる製作物を飾ったり、日常的な清掃、換気を継続して居心地のよい環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、季節に合わせた飾りつけをして、四季を実感することができた。 消毒、換気を徹底し、清潔を保つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 居心地の良い空間である。 空気や環境も清潔感がある。 電球切れや色のちがひ、洗面シンクのパッキンの汚れが気になった。 利用者が過ごしやすい椅子の配置になっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な清掃や消毒、整理整頓、年2回の大掃除は引き続き継続し、環境整備担当を増員し、全体で習慣化を目指す。 「動線を考えた物品の配置」「使ったものは元の場所に戻す」などを実施して業務の効率化を図る。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能型居宅介護のサービス内容は包括やケアマネは知っているが、地域の人々には十分に伝わっていない。地域の人々にも事業所の理解が得られ、地域資源のひとつとして認識されるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括や他のケアマネ、近隣の病院からの相談は増えていて、認知度は上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内のケアマネージャーが小規模多機能型居宅介護の理解をしていないのではないかな。 地域の回覧板やSNSなどの活用でつながりのきっかけづくりの工夫が必要と思う。 他施設で休みを利用してカフェを開催しているところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のケアマネージャーから小規模多機能型居宅介護の特徴を十分に理解が得られていない状況であるため、さらに認知度を上げる工夫をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事、イベントの参加をはじめ、日々の活動でもドライブや外出の機会を設ける。 コロナ禍で中止となった外部交流の再開を検討したり、よりそいホームで地域交流を図るためのイベントを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事の参加やボランティアの来訪は増えたが、日常的な交流やイベントの機会は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 独居の方が多く、今後も近隣の方に気にかけてもらうような取組みをしていくことが必要。 気軽に声をかけ合う関係性をこれからも大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 独居や老老世帯を支えるには近隣の方のさりげない協力が必須のため、今後もよい関係性を保つことを意識していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 例年通り、運営推進会議を通して、事業所の取組みや改善点を報告し、率直な意見を頂きサービスの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用事例や他事業所との連携について報告し、サービス提供状況や取組みなどを伝え意見を交わし、サービスに反映できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟性の高い小規模多機能型居宅介護の利用内容の紹介があり、様々な様態や希望に応じて在宅生活を支えていることがよく理解できた。 その反面、細かい部分にも介入したり、介護保険外のようなサービス内容もあり大変だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの取組みだけでなく、課題に対する実践の報告や介護保険制度改正による影響なども伝え共有していく。 質の向上と業務効率化の両面を捉える視野をもつ。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能が低下してしまう利用者が増えているため、避難経路の再検討や避難誘導等の練度を深める。 BCPの計画について、見直しの必要があるか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子や歩行器、杖歩行など、自力移動が困難な方の安全を確保するルートを再確認したり、訓練後にみつけた課題を洗い出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域としてもっと協力できることがあるのではないかと考える。 災害時の連絡方法を再確認しておくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 万が一の場合に備えて、確実な安否確認のための手段を再度周知していく。 災害時であってもサービス提供の維持、継続の必要性が高いのでBCPの内容について見直しをしていく。